

2024 年 10 月 22 日
月島ホールディングス株式会社

株式会社日本格付研究所による当社格付け引き上げのお知らせ
(「A-」から「A」)

月島ホールディングス株式会社（社長：川崎 淳）は、株式会社日本格付研究所（以下、JCR 社）による当社格付け見直しの結果、長期発行体格付が「A」へ1段階引き上げとなり、格付の方向性は安定的と評価されましたのでお知らせいたします。

■格付の内容（公表日：2024 年 10 月 22 日）

対象	変更前	変更後
長期発行体格付 (見通し)	A- (ポジティブ)	A (安定的)
債券格付（第1回無担保社債）	A-	A
発行登録債予備格付	A-	A

■格付事由（JCR 社のプレスリリースより）

- 水環境分野および産業分野向けプラントなどを手掛ける持株会社。水環境事業では汚泥処理を強みとし、主要顧客である官公庁と安定した取引基盤を構築している。さらに、23 年 10 月に JFE エンジニアリングの国内水エンジニアリング事業を事業統合し、安定事業の基盤が強化されている。産業事業では、化学・鉄鋼・食品および環境・エネルギー関連向けのプラントなどを手掛ける。また、工場跡地を活用した物流施設が安定収益源となっている。傘下事業会社に対する強いガバナンスを有しており、グループの一体性が強いことから、格付にはグループ全体の信用力を反映している。
- 水環境事業を中心に収益力の伸長および安定性の向上が見込まれる。事業統合により、水環境事業の競争力は強化されており、安定収益源であるライフサイクルビジネスも拡大している。その結果、需要変動の影響を受けやすい産業事業のボラティリティが軽減される傾向にあり、今後、全社の収益やキャッシュフローは安定して推移すると考えられる。また、財務構成は健全であり、引き続き健全な状態を維持できよう。以上より、格付を1ノッチ引き上げ、見通しを安定的とした。
- 24/3 期の営業利益は68 億円（前期比 35.2%増）であった。持株会社体制への移行に伴う一時費用や事業統合に伴う一過性費用があったものの、統合効果が業績を押し上げた。25/3 期は70 億円（同 3.5%増）と引き続き増益の計画である。産業事業では、中核の月島機械が事業環境の悪化により業績の下押し圧力を受けているが、重点領域へのシフトやアフターセールスの強化などに取り組む方針で一段の下振れリスクは限定的と考えられる。水環境事業のライフサイクルビジネスは着実に伸長しており、引き続き業績は堅調に推移すると JCR では考えている。
- 24/3 期末の自己資本比率は 42.0%（前期末 55.4%）。事業統合により、売上が第4 四半期に集中する構造となり、期末時点の売掛金が増加している。ただ、顧客は自治体が大半であり、売上債権の回収懸念は小さい。事実、25/3 期第1 四半期末の自己資本比率は 48.3%まで回復している。中期経営計画（24/3 期～27/3 期）では、戦略投資などを進めていく方針だが、一定の財務規律を維持する方針や、キャッシュフロー創出力を踏まえれば、今後、財務構成が大きく悪化する懸念は小さいと考えられる。

詳細につきましては、JCR 社ウェブサイトをご確認ください（<https://www.jcr.co.jp/>）。

《本リリースに関するお問い合わせ先》

月島ホールディングス株式会社 広報室 TEL 03-5560-6503

以上